

「臨床宗教師」講座担当者招き

「アウェイ」での活動学ぶ

超宗派の青年僧からなる「BBA」(ボース・ピ
ー・アンビシヤス)が5
月23日、東京・愛宕の曹
洞宗青松寺で勉強会「臨
床宗教師に未来はある
か？」を開催。東北大学

に実践宗教学寄付講座と
して開設された「臨床宗
教師」養成について、指
導にあたる高橋原准教授
が成果や課題、今後につ
いて話した。

東日本震災で、被災
者の心の相談活動を行っ
ていた超宗派の宗教者や
医療者、研究者の取り組
みをきっかけに始動した

「臨床宗教師」。東北大
学に実践宗教学寄付講座
が開設され「傾聴とスピ
リチュアルケアの能力向
上」「宗教間対話と宗教協
力の能力向上」「宗教者以
外の諸機関との連携方
法」「幅広い宗教的ケアの
提供方法」を学ぶ。

高橋原准教授は「お寺と
檀家の関係は「ホーム」。
そこから外に出て、公共
的な場所である「アウェイ
」の環境でどのように行
動したらいいのかを学
ばないといけない」と提
示。被災地での支援活動
や、病院での取り組みに

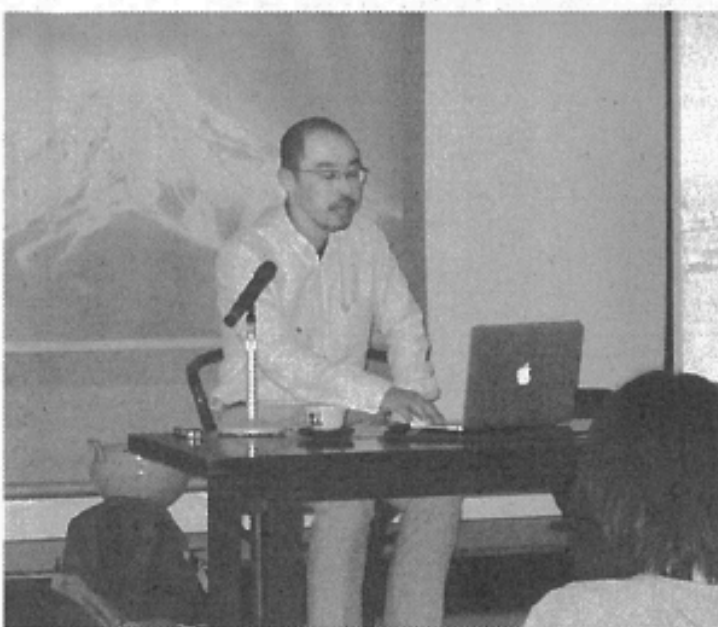
おいても、「色々な人たち
がいる支援チームの一
員」という意識や、「自分
と同じ信仰を前提としな
いコミュニケーション」
の重要性をあげた。

傾聴とスピリチュアル
ケアについては、「ケア対
象者のニーズに寄り添う
ことが最優先。宗教者と
して身につけてきた特定
の世界観、死生観、救済
観を押し付けけないこと」
をあげ、それが「公共的
空間で、おことわり」さ
れないための最低限必要
なこと」と説示。

これまでの研修から、
「色々な宗教者が集まり
学び合うことで、元気が
出るようだ」と超宗派で
取り組む大切さを指摘。

また「病院や福祉施設に
実際に入っていくことが
重要な経験になっている」
とし、「病院にお坊さんが
いくと縁起が悪いと思わ
れるが、甘えがあると思
う。宗教に対する反感、
危機感、無関心というの
が現実で、根本的な問題
があって病院に行きにく
いと考えた方がいいので

はないか」とも提言した。
修了生は医療や福祉施
設での活動を行うほか、
「法要の中にグリーンケア
を取り入れた」「傾聴の
姿勢が身についたこと
で、信徒との会話で聞こ
えてくる話の内容が変わ
ってきた」というケース
もあり、「宗教者としての
活動のクオリティがあが
っている」とも話した。



臨床宗教師研修について報告する高橋原准教授